



## 原発事故直後の経験を これからの子育て世代に。



石田 伸子 (いしだ のぶこ) さん

一般社団法人「子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト」(略称:こどけん) 共同代表。  
NPO法人「子ども全国ネット」理事。季刊『こどけん通信』編集責任者。

原発事故より8年が経ちますが、最近になって子どもが生まれ、あらためて放射能の影響が心配になったという親世代も多くいます。前回9月4月号に続き、事故直後から放射能の勉強会や測定などに取り組んできた石田伸子さんに、これからの子育て世代に経験を伝える大切さについて語っていただきました。

### ■ 出産をきっかけに放射能に関心をもつ人も

原発事故後、子どもたちを放射能から守りたいと、保護者を中心とした市民グループが各地にでき、情報交換が行われてきました。そうした市民グループの全国的なネットワーク組織として設立されたのがNPO法人「子ども全国ネット」です。年2回「学びカフェ」として食品への影響についてなど、勉強会を開催し続けています。

「放射能についての勉強会はいくつかの市民グループが行っていますが、事故直後に比べると参加者は減っている印象です。切実な思いで事故直後に動き出した親の子どもたちが、もう成人するなど大きくなったことも理由だと思います」と話すのは、「子ども全国ネット」の理事で、市民グループ「子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト(以下「こどけん」)」の共同代表でもある石田伸子さんです。

その一方で、「放射能の勉強会に初めて参加した」という、小さな子どもをもつ保護者たちと出会う機会が増えているそうです。

「お話を聞くと、原発事故当時は放射能のことにあまり関心がなかったという人も多かったです。出産を機に、食品添加物や化学物質などが気になりだして、『そういえば……』と放射能の影響も心配になったそうです」と石田さん。

事故直後は放射能の影響に対する関心が高かったため、同じ学校や保育園のお母さんたちとも給食や外遊びに対する心配を共有しやすく、すぐに仲間ができた石田さんは振り返ります。しかし、最近になって子育てを始めた親は、「メディアでもほとんど取り上げられないし、不安を共有できる相手や場所も見つからない」という悩みを抱えていることが多いと言います。



2018年10月6日(土)に開催した「学びカフェ」(主催:NPO法人子ども全国ネット、会場:ひまわり診療所)。放射能や原発事故の影響について知り、学び、話す場として年に数回、食品などをテーマに開催し続けています

### ■ 若い親たちに経験をつなぐ

「インターネットで検索すると『放射能の影響は心配ない』という情報も、『気をつけたほうがいい』という情報も両方出てくる。何が正しい情報か分からなくて余計に混乱してしまうという相談を、若いお母さんから受けることもあります」

事故から時間が経つなかで、親になった人たちに必要な情報を伝えていくこと、さらには情報を自分で引き出し活用する能力である「リテラシー」を身に付けてもらうことが今後の課題だと石田さんは感じています。

その方法のひとつとして、3年前から「こどけん」では放射能から身を守る情報を伝える冊子『こどけん通信』を年4回発行しています。

「事故直後、全国のお母さんたちが協力し合って、行政や学校との交渉を重ねました。だから今、『学びカフェ』で若いお母さんから『学校給食が心配。どうしたらいい?』という相談があれば、『給食の測定結果を公表していない学校もあるから、校長先生に話してみてもいい』『対決するのではなく、和解的に話すことがポイント』など、みんなの経験を生かしてアドバイスをしています」と石田さん。

「こどけん」設立メンバーの子どもたちはもう小学校を卒業しましたが、メンバーは今も郡山で通学路の放射線測定を続けています。測定の経験をもつメンバーに就学児の保護者から「測ってほしい」と依頼があるからです。

「子どもを守る若い世代の保護者を孤立させたくない。正しい知識をもって安心して子育てができるように、私たちが得てきた経験やノウハウを新しい世代に伝えていかなければ、と思っています」(石田さん)

■「子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト」や『こどけん通信』について詳しく知りたい方は下記Webサイトをご覧ください。

こどけん   
<http://kodomotatinomirai.livedoor.blog/>



■NPO法人「子ども全国ネット」や「学びカフェ」について詳しく知りたい方は下記Webサイトをご覧ください。

子ども全国ネット   
<http://kodomozenkoku.com/>

## 放射能検査状況について

2019年度の検査数(カッコ内は検出件数)  
2019年9月4日現在

総計: 1580(14) 不検出率: 99.1%

2018年度の検査数 総計: 3943(47) 不検出率 98.8%

青果	278(2)	2検体のれんこん(2品とも3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	17(12)	生しいたけ(4.6~11Bq/kg)と、岩手県産乾しいたけ(6.6Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	40(0)	2018年度も放射能の検出はありません。
米・米飯類	0(0)	2018年産米の検査は、28産地30検体の玄米で検査し、栃木こしひかり(4.4Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。白米で再検査したところ不検出でした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出された栃木こしひかりは白米でのお届けとなります。

牛乳、肉、卵	34(0)	産地ごとに定期的に検査しており、2018年度も放射能の検出はありません。
魚介類	91(0)	2018年度も放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	40(0)	2018年度も放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	132(0)	2018年度、検出下限値1Bq/kgで検査を行い、冷凍さつまいもスティック(1.2Bq/kg)から自主基準内で検出されました。
その他加工食品	948(0)	2018年度も放射能の検出はありません。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



● 週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。  
● インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき

パルシステム  
問合せセンター

☎ 0120-868-014  
月～金曜日: 9時～20時  
土曜日: 9時～17時

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲府センター ☎0120-28-5891  
西桂センター ☎0120-32-1061  
一宮センター ☎0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ☎0120-60-5118  
渋川センター ☎0120-36-3315  
東毛センター ☎0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。